

大人のための 歯科講座

「歯科治療の新潮流」

＝ ⑬ ＝

当院にインプラントを希望されて来院される方の半数近くは、別歯科医院で一度はインプラントの説明を受けた経験があります。その方々はよく「骨が足りないのではインプラントができないのでは？」と疑問を持たれ、傾斜を必要とする場合、傾斜埋入による問題も発生します。

傾斜埋入は歯にかかると、傾斜埋入による問題も発生します。傾斜埋入は歯にかかると、傾斜埋入による問題も発生します。傾斜埋入は歯にかかると、傾斜埋入による問題も発生します。

ルーセントデンタル
クリニック院長
後藤 英夫

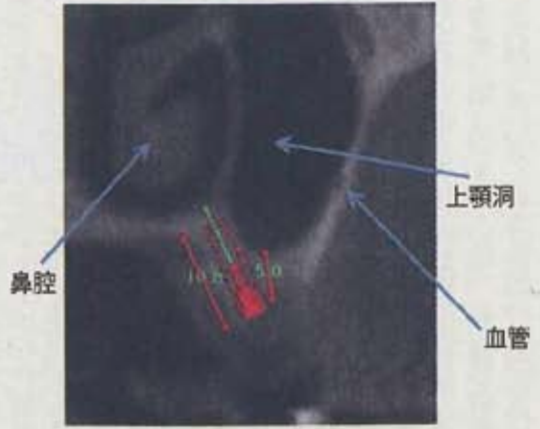
＜略歴＞ 1998年、東京医科歯科大学歯学部卒業。名古屋大学医学部遺伝子再生医療センター医員、国立長寿医療センター歯科口腔外科勤務などを経て、2008年からルーセントデンタルクリニック副院長。2011年から院長。



もともと存在する骨 可能な限り利用して

骨が少ない場合どう埋入するのか？

このように方々にCTを撮影すると十分な骨がある場合が多く、実際に少なくてもよく探せば埋入できる骨が存在する場合があります。経験的には5〜10%の方には骨造成をしないと埋入できませんが、残り90%以上は骨造成なしで埋入が可能です。



上顎のCTで得られた断面画像。まっすぐ埋入しようとする骨の長さが5mmもないため、上顎洞に骨造成しないとインプラント埋入できない。しかし、鼻腔側に少し傾斜させ、細いインプラントを図のように埋入できれば、骨造成することなく埋入できる。(ナローインプラントの傾斜埋入シミュレーション)

ほとんどの方はCTによる骨の状況と骨造成なしでインプラントができることを説明する治療を希望されます。おそらく患者さんも私達も、もともと存

感じています。ショートインプラントは骨質の良いところに2本以上を連結する形にできれば安定していると考えています。

屋市西区牛島町6の1
・名古屋ルーセントタワー3階、電話052・90800555、URL www.lucent-d.com

▲第一木曜に掲載